



対面での交流を喜び合う米沢興讓館高
(左側)と高鍋高の生徒ら

〓米沢市・米沢興讓館高

宮崎・高鍋高生が米沢興讓館高訪問

会って交流 やっぱりうれしい

米沢市の姉妹都市・宮崎県高鍋町の高鍋高(篠田俊彦校長)の2年生208人が5日、20年以上の交流を続けてきた同市の米沢興讓館高(曾根伸之校長)を訪れ、3年生194人の歓迎を受けた。米沢藩9代藩主・上杉鷹山を通じて育んできた絆を確かめ合った。

鷹山は高鍋藩秋月家の出身。先人のつながりを縁に両校生徒が2000年から隔年で相互訪問してきた。新型コロナウイルス禍で20、21年とオンラインでの交流を余儀なくされたが、今年10月には興讓館高の1、2年生3人が3年ぶり

に高鍋高を訪れた。その際、高鍋高生が本県などへの修学旅行の道中に、興讓館高に立ち寄ろうという話が持ち上がったという。

興讓館高生は校舎前で高鍋高生徒を出迎え、互いに地元特産品などを手渡し、興讓館高応援団が力強くエールを送った。

高鍋高の岡本俊輔さん(16)は「短い時間だが、このような形で交流できてうれしい」と喜び、興讓館高の齋藤映斗さん(18)は「オンラインでも交流はしていたが、直接会話して、より一層絆を感じた」と話していた。

(大坪千絵)